

【川西公民館（第5回）】路線バス利用者説明会 会議録

|             |  |
|-------------|--|
| 1 日 時       | 令和7年4月16日（水曜日） 19:00～20:30                   |
| 2 会 場       | 川西公民館 大ホール                                   |
| 3 出 席 者     | ●千曲バス株式会社 伊藤所長<br>○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角 |
| 4 参 加 者     | 9名   |
| 5 会議概要作成年月日 | 令和7年5月19日                                    |

協 議 事 項 等

- 1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）
- 2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）
- 3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）
- 4 交通事業者の現状について（千曲バス株式会社 伊藤所長）

5 質疑応答

●参加者

- ・公共交通が厳しいということは30年前から言われていた。
- ・行政としては市民に提供するサービスの最低限は守らなければならないという考え方があると思う。
- ・運賃低減バスを12年間実施してきた中で、この施策についてどう評価しているか。
- ・路線バスの廃止は全県的な問題である。バスには県の補助金も入っていると思うが、県はどういった考えを持っているのか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・運賃低減バス運行事業は平成25年10月から実施し、本年で12年目を迎えた。
- ・効果については3点あると考えている。
- ・まずは利用者の増加である。導入して2年目で大きく増加した。
- ・しかし、その後コロナ禍の影響もあり、利用者は横ばいとなっている。
- ・また、高校生の通学に係る定期代等の負担軽減にもつながったと考えている。
- ・さらに、運賃が50円単位となったため、運賃を確認する運転手の負担軽減にもつながった。
- ・しかし、課題についても2点ある。
- ・まず、事業者のインセンティブが働きにくい点である。
- ・本事業では低減前の平成24年10月から1年間の運賃を保証し、その差額を事業者に交付するというものである。
- ・そのため、利用者数が増減しても事業者にとってはあまり影響がない。
- ・また、特別交付税の対象にならないため、負担金の全額を市の一般財源で負担している。
- ・なお、特別交付税措置は幹線系統に該当するバス路線が8割、それ以外の路線は財政力指数に応じて

割り落としとなる。

- ・県の考え方についてだが、現在平成 13 年時点で市町村をまたいでいた路線については地域間幹線系統として国、県から補助をいただいている。
- ・今回、県は支援を厚くすると計画しているが、その対象となる路線は現在の市町村またぎの路線のみである。
- ・そのため、当市で対象となる路線は青木線のみとなる。
- ・当課では国に幹線系統と認められている路線については、県も支援を厚くしてほしいと意見を述べているところである。
- ・県には県の事情があるということは理解しているが、納得はしていないと主張している。
- ・引き続きバス事業者とともに意見していきたい。

⇒●参加者

- ・上田市街地循環バスについては、どういった見直しを行うのか。
- ・丸子、武石地域ではデマンド交通が運行されているが、見直しを行うのか。
- ・しなの鉄道では Suica が導入されるとのことだが、上田市は導入していくのか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・上田市街地循環バスについては、一部運行ルートの変更を検討している。
- ・オレンジバスの乗客がアクアプラザで降車するケースが多かったため、卸団地を経由するルートから、アクアプラザを経由するルートへ変更を行うことで利用者の確保を図っていきたい。
- ・また、上田市街地循環バスは昼間の利用者が少ないため、信州上田医療センター線と統合して再編できないか今後検討していきたい。
- ・デマンド交通について、説明の中でマイナス面を強調したが、これは旧上田市を中心とする市街地で実施する場合である。
- ・デマンド交通の大きな問題は、タクシーと競合することである。
- ・それによって、タクシー事業者の経営悪化につながり、廃業に追い込まれるという懸念があり、それは防がなければならない。
- ・ただ、武石地域デマンド交通については合併する前の平成 18 年 2 月に村営バスや路線バスが縮小してく中で、地域の移動手段を確保するために開始されたものである。
- ・タクシーの配車に時間がかかる地域でもあるため、地域に即した交通モードだと考えている。
- ・丸子地域デマンド交通については、平成 12 年に運行が開始された丸子地域循環バスが前身となっている。
- ・丸子地域循環バスは当初利用者がいたものの、近年利用者が激減し、その代替ということで丸子地域デマンド交通を令和 5 年 10 月 2 日から実施している。
- ・ただし、民業圧迫がどうしても懸念される点であるため、紹介した神川地域の取組が広がっていくことがベストだと考えている。
- ・キャッシュレスの関係については、来年 3 月よりしなの鉄道に Suica が導入される。
- ・県でも知事から、令和 4 年に全県の路線バスへ Suica と連携する地域連携 IC カードを導入していこうと声かけがあった。
- ・しなの鉄道に Suica が導入されることとなった背景としては、この 3 月から JR 東日本の信越本線に Suica が導入されることとなり、その路線に乗り入れるしなの鉄道は Suica を入れざるを得なくなったためである。
- ・上田市は令和 2 年から地域の企業が開発した TicketQR を公共交通へ導入してきた。
- ・県の方針が出る前に既にキャッシュレス化の取組を始めており、県へも情報共有をしながら取り組み

を進めてきた中で、令和4年になって県の方針が出てきたため、急に県の方針に沿うことは難しい。

- ・また、地域連携 IC カードは導入コストがそれなりにかかるため、それを誰が負担するのかという問題も出てくる。
- ・まずは安価に導入でき、ランニングコストも安い TicketQR を推進していきたいと考えている。

⇒●参加者

- ・承知した。
- ・確認だが、丸子地域デマンド交通は当分運行が継続されるという認識でよいか。また、運賃は変わらないのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・導入されてまだ1年半ということもあるため、住民の方の声も聞きながらどういった運行を行っていくかは丸子地域建設課に委ねられている。
- ・運賃や運行時間についても、ご意見を頂戴しながら随時検討していきたい。

●参加者

- ・説明の中で運転免許証自主返納促進事業の見直しについて触れられていたが、唐突に出てきて意味がよくわからなかった。
- ・これは運転手を確保するために免許を返納しないでほしいということなのか、それとも免許を返納してバスに乗ってもらいたいのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・運転免許証自主返納促進事業では免許を自主返納された方に1万円分のタクシーチケットを交付する事業である。
- ・本事業は開始から8年を迎えている。
- ・事業については約10年経過したところで効果検証を行い、今後の方向性について検討する必要があると考えている。
- ・見直しの方向性について現時点では決まっていないが、検証を行ったところでまた皆様にお伝えしたい。
- ・タクシー事業者のおかれている状況がかなり厳しい中で、将来的にタクシー補助券を交付しても利用できるタクシー事業者がないという事態も現実味を帯びている。
- ・そのため、タクシー事業者の体力も踏まえ、今後公共交通を残していくということを考えながら検証を行っていきたい。

●参加者

- ・青木線について、20時台の便が復活するとの話があったが、これはいつから実施とのなるのか。
- ・青木村の村営バスを利用している方もいるが、上田市内は止まらないため、学校の部活が終わると上田駅まで迎えに行っている保護者もいる。
- ・朝の青木線の状況について、子供の通う学校は8時50分に始業となるが、道路状況を考えると6時台の青木線に乗らなければ、学校に間に合わない状況である。
- ・青木村に企業の工場ができたことにより、朝夕は地域の方も国道に合流しにくい状況となっている。
- ・また、7時台に上田市内へ入るバスについても青木村内でバスが満車となっており、雨や雪の日は乗車できずに次の便を案内される。
- ・こういった状況は何年も前から発生しており、近年さらに拍車がかかっている。
- ・最近ではSDGSが進められている中で、通勤に公共交通を利用したいが、最終便が早いいためなかなかバスを利用することができない。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・青木線 20 時台の復活について、計画の段階であり、事業者の経営が厳しい中で本当に実現できるかということは今後協議していくという状況である。
- ・そういった中で、20 時台を復活できたとしても 20 時台の早い時間の運行が現在の限界だと考えている。
- ・また、実施する場合は本年 10 月から運行を開始したいと考えている。
- ・渋滞については交通事業者ではどうしようもないところがある。
- ・こういった中で、昨年度日置電機(株)が実証実験として、通勤に公共交通を利用するという取組を実施した。
- ・また、青木村に工場を建設した事業所についても、通勤に公共交通をご利用いただくような提案を青木村を通して行い、少しでも車を減らすような取組を行っていききたい。

⇒●参加者

- ・承知した。
- ・オレンジバスの運賃が 200 円になるという話だが、TicketQR も利用できるようになるのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・利用できない。
- ・運賃が 200 円となる 10 月からはひとまず現金での支払いをお願いしたい。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・渋滞の関係については、千曲バスも困っている状況である。
- ・なかなか改善にはならないが、そういったご意見があるということは承知している、

●参加者

- ・渋滞については幹線道路が 1 本しかないため、改善はなかなか難しいと思う。
- ・建設部署などにも話をしていかなければならない。
- ・青木線の最終便が減便によって繰り上げられたことにより、学生の親御さんや県庁職員は困っているため、20 時台の復活はぜひお願いしたい。
- ・千曲バスの運転手に女性がいて大変よいと思う。入社の際緯などを教えほしい。

⇒○千曲バス株式会社 伊藤所長

- ・20 時台の便について、上田市の希望として 10 月 1 日から運行ができればとお話をいただいている。
- ・しかし、10 月 1 日というと半年しかない。
- ・先ほどの説明にもあったとおり、現在当社の運転手不足数は 12 名である。例えば上田駅を 20 時ちょうどに発車した場合、青木バスターミナルに着くのが 20 時半過ぎとなる。回送で営業所に戻っても終業点呼等を行うと 21 時半までかかってしまう。
- ・その場合、2024 年問題によって、21 時半から 11 時間は休息をとる必要があるため、おそらく 8 時半以降の出社という形になる。
- ・当社の運行のラッシュは 5 時半から 7 時までであり、8 時半頃に会社に来られても仕事がない状況である。
- ・やはり、雇用促進を図っていかなければ、現時点では 20 時台の復活を明言することはできない。
- ・現在、市と協力し「バスの運転体験ができる会社説明会」を実施している。
- ・今年度も開催するため、是非ご家族などにお声がけいただいて、1 人でも多くの募集があるようお力添えいただきたい。
- ・女性運転手については、当社では上田営業所に 2 名、小諸営業所に 1 名の計 3 名が在籍している。

- ・お客様からも男性より女性の方が運転も対応も優しいとお褒めの言葉をいただいている。
- ・子育て世代の女性でお子さんが小学校、中学校に進学し、ある程度仕事をする余裕が出てきた方の就業も促進できればと考えており、市と協議しながら女性が勤務しやすい環境を構築できればと考えている。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・柗津線の再編についても、終点をツルヤかこのう店とすることで、休憩時間に昼食の購入が可能でありさらにトイレもしっかりと完備されており、明るい環境で待機ができる環境となっている。
- ・運転手に優しく、また、女性の運転手でも快適に休憩できるということも考え、再編を行った。
- ・こういった路線を増やしていき、運転手の環境も整備しつつ、女性運転手の確保へつなげていきたいと考えている。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・先ほどの説明でも「バスの運転体験ができる会社説明会」について紹介させていただいた。
- ・その中で女性運転手1名が採用され、現在小諸営業所で勤務している。
- ・こういった説明会も入社の一つのきっかけになると考えている。
- ・本来はバス事業者で開催するものであるが、そうはいつていられないため、市も伴走型支援をしていきたいと考えている。

6 閉 会（上田市 交通政策課 横沢課長）